

沖縄・九州地方で、サツマイモ基腐病の発生が 確認されています。 県内での発生に注意しましょう。

平成30年度に、沖縄および九州地方の一部地域でサツマイモ基腐病の発生が確認されています。現在、茨城県内での発生は認められていませんが、感染種イモ・苗等が持ち込まれた場合は、本県でも発生する可能性があります。生産園地での発生について警戒をお願いします。

1 サツマイモ基腐病について

- 1) 病原体名：*Plenodomus destruens* Harter (糸状菌)
- 2) 寄主植物：ヒルガオ科植物(主にサツマイモ)

2 国内での発生状況

平成30年11月に、沖縄県で初めて発生が確認され、その後、鹿児島県、宮崎県でも確認された。

3 本病の特徴

- 1) 苗床、本圃および塊根の貯蔵中に発生する。
- 2) 苗床で発病した株は、苗基部の黒変、地上部の葉巻や萎縮症状等が見られる(写真1,2)。
- 3) 本圃では、地際の茎の黒変、茎葉の黄変、しおれ症状等が見られる(写真3,4)。茎葉が繁茂する時期には茎が黒～黒褐色に変色し、地上部が枯死する。
- 4) 塊根の症状としては、なり首からゆっくりと腐敗し、乾燥して硬くなる(写真5)。

4 防除対策

本病は糸状菌による土壌病害であり、予防的な防除対策としては、他の土壌病害と基本的に同じである。

- 1) 県内で発生した場合、発生を拡大させないためには早期発見が重要である。そのため、発病株を見つけやすい時期(茎葉が地上部を覆う前までの期間)の圃場観察が重要である。
- 2) 種イモには腐敗や病害、傷のない健全な芋を使用するとともに、苗の消毒を徹底する。
- 3) 植付前には、本圃の排水対策を行う。
- 4) 苗床や本圃で発生を確認した場合は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出す。

※生産園地で疑わしい症状を確認した場合は、直ちに病害虫防除所(TEL: 0299-45-8200)にご連絡ください。



写真1 種イモの腐敗，苗基部の黒変



写真2 苗床での葉巻，株の萎縮



写真3 株元の黒～褐色変症状



写真4 本圃での生育不良株



品種「高系14号」



品種「シロユタカ」

写真5 腐敗した塊根（品種を問わずほぼ同じ病徴）

※写真：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）により作成した令和元年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より引用